

「ならなぎ」活動報告

報告者： 玉尾 洋一

日時	2025年5月11日(日) 13時～15時半	天候	晴れ のち雨	歴史文化チーム定期活動 ならまちセンター
案内団体または催事名	歴史文化チーム定期活動 第11回目		人数	大人： 12名 子供： 1名

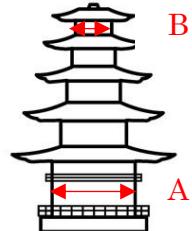
(敬称略)

出席者：吉川、義田、木邨、玉尾洋、中澤、山口、池田、奥山、北川、寺尾、山岡、玉尾ひ

実施内容：13時～15時30分 座学

★P.152 興福寺五重塔～

- ・【ニュース】五重塔の改修中だが、当初の完成時期が3年延長され、令和16年3月になると発表された。原因是初重四隅の柱の上にある大斗が建物の重さで変形しており、これを取り換える事を決定した。2～5重全体をそのまま工具で持ち上げ取り換える。
 - ・薬師寺三重塔では、ヒノキは比重軽く、硬すぎず、粘りのある材で桁や通肘木など横架材に適しており、多くがこれを使っているが、四隅には荷重がかなりかかるので、そこの肘木・大斗などには、強く強靭なケヤキが使われている(P.111～113)。興福寺ではどうなのか？(五重塔見学で確認！)
 - ・通減について。通減が大きいほど、通減率が小さいほど、安定感がある。
- A-B=通減 B/A=通減率
- ・興福寺五重塔は初重では軒先のラインが、中央間付近ではほぼ水平になっているのに、途中から少しづつ外に向かって上がって行き、丸桁から先はグッと、急激に反り上がっており。二重より上ではより反り上がりが、きつくなっている。これは丸桁の成(せい)を隅に向かって少し高くすることにより出来ている(桁増し)。この五重塔は通減は小さいが、この技術により美的感覚が表れており、高さも巨大であることから、鈍重とは感じられない。
 - ・興福寺三重塔は初重だけ出組にして、二重・三重は三手先になっている。このままでは軒先が不揃いとなるはずだが、なっていない。それは初重の柱を大きく外側に出しているから。また心柱が二重から上へ伸びている。平安時代以降、塔は仏舎利を納めるものから、初重を「仏堂化」し内部空間を広く作る方へ移行していったからだ。
 - ・興福寺中金堂は1717年に全焼し、100年後に豪商や庶民の寄付により、建てられた。朱色に塗られていたので「赤堂」と呼ばれ親しまれていたが、老朽化し、薬師寺の旧金堂を移築した。その後2018年現在の金堂が再建された。課題は巨材入手が困難であったが、柱に使うケヤキはカメリーンから、横架材にはカナダの米ヒバが取得できた。



● 次回 6月8日 13時 ならまちセンター第4会議室

P. 181 第4章 聖武天皇の夢、東大寺

(気になった点、引継ぎ事項)